

令和3年12月

各 位

公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構
(アジア太平洋フォーラム・淡路会議事務局)

時下 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

アジア太平洋地域の多様な文化が共生する“新たなアジア太平洋のビジョン”の構築と発信をめざす「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」(代表理事:井植 敏)は、「アジア太平洋研究賞」を設け、アジア太平洋地域に関する優れた人文・社会科学領域の博士論文を顕彰しています。

この度、第21回受賞候補論文を募集しますので、ぜひご推薦を賜りますようお願いいたします。

記

● 対象

日本の大学院で学んだ日本人および留学生等で、平成29年3月以降に当該大学院博士課程を修了し応募時点において学位取得済(平成29年3月以降に単位取得退学し、その後博士の学位を取得している場合も可)、かつ大学院の指導教員から推薦を受けた者

● 論文

1. アジア太平洋地域における「多文化共生社会」の実現に資する人文・社会科学領域の研究をテーマとする論文であること。
2. 当賞に初めて応募する論文であること。

● 提出期限

令和4年4月22日(金)【必着】

● 受賞者及び賞の内容

受賞者数 2名程度

賞の内容 本賞:表彰状及び副賞(100万円)

● その他

応募・ご推薦に際しては募集要領をご覧ください。

〔アジア太平洋フォーラム・淡路会議ホームページにも募集要項を1月11日から掲載します。また過去の受賞者については、同ホームページの「顕彰事業」をクリックすればご覧いただけます。〕

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
人と防災未来センター東館6F
公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構
(アジア太平洋フォーラム・淡路会議事務局)
TEL: 078-262-5713 FAX: 078-262-5122
E-mail: gakujutsu@dri.ne.jp
HP: <https://www.hemri21.jp/awaji-conf/>

第21回「アジア太平洋研究賞」 — 募集要項 —

アジア太平洋地域の多様な文化が共生する“新たなアジア太平洋のビジョン”の構築と発信をめざす「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」（代表理事：井植 敏）は、「アジア太平洋研究賞」を設け、アジア太平洋地域に関する優れた人文・社会科学領域の博士論文を顕彰しています。

第21回受賞候補論文を次のとおり募集しますので、奮ってご応募ください。

- 主 催
アジア太平洋フォーラム・淡路会議

- 後 援
朝日新聞社（予定）

- 対 象
日本の大学院で学んだ日本人および留学生等で、平成29年3月以降に当該大学院博士課程を修了し応募時点において学位取得済（平成29年3月以降に単位取得退学し、その後博士の学位を取得している場合も可）、かつ大学院の指導教員から推薦を受けた者。

- 論 文
 1. アジア太平洋地域における「多文化共生社会」の実現に資する人文・社会科学領域の研究をテーマとする論文であること。
 2. 当賞に初めて応募する論文であること。

- 応募期間
令和4年1月11日（火）～令和4年4月22日（金）必着

- 応募書類
 - 1 および2の①～④のすべてを応募期間内必着で送付のこと。【持参不可】
 1. 所定の推薦書（ホームページからダウンロード可）
 2. 添付書類（日本語または英語表記に限る）
 - ①～③はA4判紙媒体、④は電子媒体にて提出のこと
 - ①博士論文 1部（製本・未製本いずれも可）
 - ②論文要旨 1部（片面1枚）
 - ③②の要約文 1部（300字以内）
 - ④上記①～③のPDFデータを保存したCD-ROM又はUSBメモリ上記①～③それぞれを独立した3つのPDFファイルとし、ファイル名には執筆者名を入れて日本語または英語で保存のこと。
（例：①博士論文のPDFファイル「淡路太郎 博士論文.pdf」）

*博士論文が書籍化されている場合は、書籍1部を合わせて提出すること。なお、提出された書籍は、審査終了後に返却します。

応募書類に不足・不備がある場合は、応募を受け付けないこともあります。
書籍以外の応募書類は返却しません。

- 論文の選考
研究賞選考委員会において審査・選考を行います。

- 受賞者数および賞の内容
 - (1) 受賞者数 2名程度
 - (2) 賞の内容 本賞：賞状および副賞100万円

- 審査・選考結果の発表
 - (1) 受賞者の発表は、令和4年7月頃の予定です。
 - (2) 選考結果については文書で通知します。
 - (3) 受賞論文の要旨を淡路会議年次報告書に掲載します。

- 授賞式
令和4年8月5日（金）（淡路夢舞台国際会議場で開催予定）

- 提出先（お問い合わせ先）
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター東館6F
公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構内
「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」事務局

TEL：078-262-5713
FAX：078-262-5122
E-mail：gakuju^tsu@dri.ne.jp
ホームページ：<https://www.hemri21.jp/awaji-conf/>

The 21st Asia Pacific Research Prize

—Application Outline—

The Asia Pacific Forum, Awaji Conference Japan, which aims to create and spread a “new Asia Pacific vision” of symbiosis among the diverse cultures of the Asia Pacific region, established the Asia Pacific Research Prize to reward outstanding dissertations in the field of humanities or social sciences relating to the Asia Pacific region. Applications for the 21st Asia Pacific Research Prize are invited under the following conditions:

- Organizer
Asia Pacific Forum, Awaji Conference Japan
- Support
The Asahi Shimbun (tentative)
- Eligibility
Japanese, international students and others who have officially enrolled in a post-graduate course at a Japanese graduate school and have been conferred a doctorate from such institution after March 2017. A letter of recommendation is required from the advisor of the graduate school.
- Dissertation
 1. The dissertation should detail research in the humanities or social sciences that contributes to the realization of a “multicultural symbiotic society” in the Asia Pacific region.
 2. Dissertations submitted in previous years are not acceptable.
- Application Deadline
April 22, 2022
- Application Documents (non-returnable)
All documents 1. and 2.1. to 2.4. listed below must arrive by Friday April 22, 2022: Submitting in person is not acceptable.
 1. Prescribed Letter of Recommendation (downloadable from the website shown below)
 2. Supplementary documents (either in Japanese or English)
Documents 2.1. to 2.3. must be submitted as A4 sized-paper copies and 2.4. in an electronic medium:
 - 2.1. Copy of the dissertation (either in sheets or bound)
 - 2.2. Outline of the dissertation (one page; single-sided printing)
 - 2.3. Summary of the outline (120-word summary of the outline of the dissertation mentioned above)
 - 2.4. Recording medium such as a CD-ROM or USB flash drive containing PDF data of 2.1. to 2.3. shown above. Each document must be saved as an individual PDF file under the applicant’s surname, e.g. “SMITH dissertation.pdf”.

* If your dissertation has been published, submit a copy of the book. It will be returned afterwards.

Note that the application may not be accepted if any of the application documents are missing or incomplete.

- Selection of Prizewinners

The selection committee of the Asia Pacific Research Prize will review the dissertations to select prizewinners.

- Number of Prizewinners and Prize Details

1. Number of prizewinners: Approximately two
2. Details of prize
Main Prize: Prize certificate and a prize of 1,000,000 yen

- Announcement and Notification of the Results

1. The name of the prizewinners will be announced in July 2022 (tentative).
2. The result of the selection will be notified in writing.
3. The outline of the prizewinning dissertations will be published in our annual report of the Awaji Conference.

- Awards Ceremony

To be held on Friday August 5, 2022 at the Awaji Yumebutai International Conference Center.

<Address for Submission of Applications and Contact Details>

Secretariat of the Asia Pacific Forum, Awaji Conference Japan

Address: East Bldg. 6F, 1-5-2, Wakinohamakaigan-dori, Chuo-ku, Kobe, Hyogo, Japan 651-0073

TEL: +81-(0)78-262-5713

FAX: +81-(0)78-262-5122

Website: <https://www.hemri21.jp/awaji-conf/english/index.html>

E-mail: gakujutsu@dri.ne.jp

日ソ国交交渉 新史料使い細部まで

アジア太平洋研究賞

アジア太平洋地域の多文化共生に向けた政策提言をする「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」(井植敏・代表理事)が、第20回アジア太平洋研究賞の本賞に防衛大学校グローバルセキュリティセンター共同研究員の岡田美保さん(49)を選んだ。1955年から56年にかけて行われた日ソ国交回復交渉の過程を、近年新たに公開された旧ソ連史料なども駆使しながら、ソ連外交の視点を加えて捉え直し研究した。

日本との交渉に臨み、当時ソ連政治指導部内には、「南樺太と千島列島の帰属問題は解決済み」として北方四島(択捉島、国後島、色丹島、

防衛大学校グローバルセキュリティセンター
共同研究員 岡田美保さん



歯舞群島)に対するソ連の主権を主張し、一切の譲歩をせずに国交回復に持ち込もうとするモロトフ外相を中心とする強硬路線と、対米防衛上必要な国後・択捉両島に対するソ連の主権を確保するため、歯舞群島と色丹島を一定条件の下に日本に引き渡す方針を取るフルシチョフ第1書記らを中心とする平和共存派が存在していた。次第にフルシチョフら平和共存派が外交の主導権を握るようになり、55年8月にソ連は「その他の問題との関連において、歯舞群島と色丹島の二島引き渡しの用意がある」との提案を行う。

岡田さんは、こうしたソ連政治指導部内の二つの交渉方針の対立の背景や、二島引き渡し提案に至る国内的・国際的

的文脈とその狙いを、非公式会談記録なども含む旧ソ連史料を駆使して明らかにした。さらに、二島引き渡し提案が日本の政治勢力の間に引き起こした分断状況なども分析。56年10月に、領土問題を棚上げにして国交正常化を図った「日ソ共同宣言」の署名へと至る過程を、日本と旧ソ連の膨大な史料をもとに再構成した。

選考では、新たに公開された旧ソ連の史料のほか、先行研究やマスコミが発見した史料などをさらに追究し、従来の解釈の誤りや不正確さを指摘し、複雑な交渉過程を細部まで浮き彫りにしたと高く評価され、今後の新たな研究の基礎となるとされた。

この賞は、朝日新聞社が後援している。(池田洋一郎)